

答辞

まだ寒さが残る中にも、心地よい柔らかな日差しに春の訪れが感じられます。本日、この佳き日、私たち五名は新たな旅立ちの時を迎えました。

四年前の春、大きな期待と少しの不安を胸に始まった高校生活。少人数での授業や日が暮れ始めてからの登校、何もかもが新鮮でした。四年間を共にするクラスメイトとの出会い。最初は友だちになれるか不安でしたが、同じ時間を積み重ね、今はかけがえのない存在として隣に座っています。そんなクラスメイトや先輩、後輩、先生方と過ごした日々が次々と思い出されます。

特に最高学年として迎えた今年度は、新型コロナウイルスの影響で、臨時休業があったり、学校行事が中止や変更になったりなど、印象深い一年となりました。

楽しみにしていた大阪への修学旅行は、四国水族館への遠足に変更となりました。大きな水槽を悠々と泳ぐ魚たちや迫力あるイルカのパフォーマンス。修学旅行がなくなったのは残念でしたが、だからこそクラスメイトと自由に過ごしたこの一日が大切な思い出として一人一人の胸に刻まれています。

運動会では、密接・密集にならない新しい競技を生徒みんなで考えることになりました。選手も見ている人も楽しめる競技を最初から考えるのは難しく、試行錯誤の連続でした。さらに私は「〇×クイズ」の出題者でもあり、みんなが盛り上がるような問題を考えるのにとっても苦労しました。当日は、頑張った準備をしたかいあって、みんなが笑顔の心に残る楽しい運動会となりました。運動会の準備を通して、様々な行事は、多くの人の支えがあって成り立っているのだということを改めて認識することができました。

中止になった県総体の代替試合として行われた卓球の交流試合では、試合ができることへの喜びと感謝を胸に臨みました。三位決定戦で勝利を収めたときの、あの言葉にできない達成感と充実感は絶対に忘れることはないと思います。

この特別な一年があったからこそ何気ない日々の大切さに気づき、そして不測の事態が起こった時でもみんなで知恵を出し合い、思いやり、支え合うことで乗り越えていけることを学びました。

中学生の頃、私はクラスメイトに話の合う人が少なく、クラスになじむことができませんでした。日に日に自分とクラスという空間に妙な距離感を感じるようになり、その場にいることが苦痛で、いつしか学校に行けなくなっていました。その距離感是他の人にとっては何でもないことだったのかもしれませんが、でも当時の私にはそれがとても辛いことだったのです。一度行かなくなってしまうと、次に登校したときの、まるで珍しいものでも見るかのような周囲の視線が怖くなり、卒業間際まで登校できませんでした。何とか定時制には合格で

きたものの、また以前のようには学校に行けなくなってしまうのではないかと
いう不安がありました。しかし、私の高校生活は自分でも驚くほど順調だったの
です。朝が苦手な自分にとって、夕方から始まる定時制のリズムが合っていた
こと、そして何より優しいクラスメートとの出会いがあったからです。他愛な
い話で盛り上がったり、先生の冗談に笑い合ったり、みんながいる教室は、そ
のままの自分でいられる大切な私の居場所でした。

時には学校とアルバイトの両立に心身共にへトへトになったこともありまし
た。それでもこうして続けてくることができたのは、両親や先生方の「お疲れ
様」や「一緒に頑張ろう」というねぎらいや励ましの言葉があったからだと思
います。

人生は選択の連続です。人はどれだけ最善だと思っただけ行動したとしても、そ
の選択が必ずしも正しいとは限りません。選択を誤り、転んでしまうこともあ
ります。しかし、その繰り返しは人生なのではないでしょうか。転ぶたびに周
りの人と関わってきたからこそ、自分自身を見つめ直し成長することができ
たのだと思います。今まで私たちに関わってくくださった方々に感謝の気持ちで
いっぱいです。

先輩の皆さん、これから苦しいことや悲しいことが少なからずあると思いま
す。でもどうか諦めないでほしい。その苦しみや悲しみはいつか自分の成長に
つながります。私は定時制にきてそう信じていることができるようになりました。
だから最後まで諦めずに卒業、そして夢に向かって進んでください。私たちは
これからもずっと皆さんを応援しています。

今、四年間を共にしてきた仲間と別れ、それぞれの道へ踏み出そうとしてい
ます。その道の先には経験したことのない厳しい試練や困難が待ち受けている
ことでしょう。そんな時には、この定時制で学んだことや仲間と過ごした日々
を思い出し、前を向いて歩いていきます。みんなと出会えて本当によかった。
いつか成長した姿でみんなと会えることを心から楽しみにしています。

名残は尽きませんが、そろそろ愛着あるこの学び舎ともお別れの時が近づい
て参りました。今まで私たちの学校生活を支え、多くのことを教えてくださっ
た保護者の皆様、先生方、在校生の皆さん、地域の皆様、本当にありがとうご
ざいました。

卒業生一同、母校川之江高等学校定時制のますますのご発展を心よりお祈り
申し上げます、結びの言葉とさせていただきます。

令和三年三月一日

卒業生代表